

日本学生経済ゼミナール関東部会プレゼンテーション部門 外国語学部 チーム「渡部ゼミ」が優秀賞を受賞

～外国にルーツのある子供たちを支えるボランティア活動「きずなプロジェクト」について発表～

文京学院大学(学長:櫻井隆)は、2020年11月15日に開催された「第60回日本学生経済ゼミナール関東部会」(主催:日本学生経済ゼミナール関東部会 以下:インナー大会)の「プレゼンテーション部門」に出場し、外国語学部の渡部吉昭教授のゼミナールに所属する3年生4名からなる、チーム「渡部ゼミ」が優秀賞を受賞しました。「外国にルーツのある子供たちの問題解決に向けて～大学生ができる持続可能な取り組み～」を研究テーマに発表を行いました。

日本学生経済ゼミナール関東部会大会について

「日本学生経済ゼミナール関東部会大会」は、通称「インナー大会」と呼ばれる関東地区の経済・経営・商業系を専攻する学生を対象にした学術大会です。他大学と交流を深めることを目的として1960年に設立され、「討論部門」と「プレゼンテーション部門」(以下「プレゼン部門」と呼称)の2部門で構成されています。現在は、1,000人超の学生が参加する、関東最大規模の学術発表会として活動を続けており、本年度は、Web 会議ツール「Zoom」を利用したオンライン開催で実施されました。

本学が参加した「プレゼンテーション部門」には、各大学から135チームがエントリーし、全参加チームを12ブロックに分けて10月に行われた予選会を勝ち抜いた8大学12チームが11月15日の本選に臨みました。本選は、論理的思考力やプレゼン力など5つの項目に基づいた審査が行われました。

チーム「渡部ゼミ」が発表した「外国にルーツのある子供たちを支えるボランティア活動『きずなプロジェクト』」については、身近にありながら無自覚に過ぎてしまうかもしれない問題に着眼した点が高く評価され、優秀賞を受賞しました。

受賞したチーム「渡部ゼミ」の研究テーマと活動内容について

優秀賞を受賞したチーム「渡部ゼミ」では、国籍にかかわらず、父母の両方、またはそのどちらかが外国出身者である「外国にルーツのある子供」に焦点を当て、活動しました。

外国にルーツのある子供は、言語の違いからコミュニケーションがうまく取れない、文化の違いに悩みを抱えることから、疎外感や孤独感から不登校・中退につながるという社会課題があります。学生達は、学習支援や交流する機会を提供している「地域ボランティア」に着目し、子供たちをサポートできる環境づくりについて研究しました。

しかし、地域ボランティアは、サポートメンバーの人員不足や高齢化により、活動の場が失われるという問題を抱えています。そこで、学生は、地域ボランティアを継続し次世代につなぐ為には、“持続可能な活動”が必要と考え、大学生による地域ボランティア活動である「きずなプロジェクト」を立ち上げました。「きずなプロジェクト」による学習交流イベントをこれまで2回実施しており、大学生と子供たちがより多くのコミュニケーションを取れるようにする“アイスブレイク”や、日本の文化を知ってもらう“〇×クイズ”、楽しく言葉の学習ができる“ビッグかるた”、子供たちの国の文化を発信できる“ビンゴゲーム”等を行い、子供たちと文化交流を深めました。

また、「きずなプロジェクト」を継続して実施していくため、新たに、学生ボランティア団体「Lien's」を結成しました。大学生を対象とする「Lien's」の活動紹介、活動参加への呼びかけや、外国にルーツのある子供たちの保護者への情報発信の多言語化などを実施し、地域ボランティアが抱える問題や外国にルーツのある子供が抱える問題をSNSから発信することで、大学生ができる持続可能な取り組みを広め、社会課題の解決に努めていく予定です。



「きずなプロジェクト」 開催当日の様子

■外国語学部 渡部ゼミのチームリーダー学生からのコメント

インナー大会のために、約9ヶ月間毎日活動してきました。新型コロナウイルス感染症の影響で思うように活動することができず、何度も壁にぶつかりました。そんな中でも、諦めずに活動し続け、また、イベントの際には多くの方が協力してくださったおかげで、優秀賞獲得に繋がったと思います。この経験の中で取材やイベントを行う上での段取り、チーム作業において個々が力を発揮できる空気作りの大切さを学ぶことができました。この経験を今後の学生生活そして就職活動にも活かしていきたいと思っています。